みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 森 皐
半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-普通 2612963

人員、保安が重要課題

下期生産会議――先行き不透明のまま

下期中央生産会議が十月十六日に開かれ、三池炭鉱の下期生産計画や人員計画などが提示されました。上期の生産が不振であったことから、年間生産目標の二百三十五万トンを達成するためにマイナス分を下期で取り戻す計画で、人員は自然減耗無補充のままであり、先行きの不透明さとともに、人員・保安の確保と労働条件向上などが今後の重要な課題です。

――委員会に報告）

年間約百人減

上期は百十七万五千トンの計画に対して百四万千二百トンで十三万トン余りのマイナスで推移しました。原因は第二上層西四十卸西五片払の自然条件悪化、吊天崩落発生による生産停止、台風上陸・接近などによる出勤低下などがあげられています。

下期の生産計画は、上期のマイナスを上乗せした百三十万八千八百トンで、人員は年間約百人の減員を補充せず、切羽の集約化、効率的・有効な人員配置を進めることで対処するとしています。

この計画通り実施されると、上期能率（人当たり）一四八・五トンに対して下期は一九〇・〇トンにはね上がることになり、大型採炭機の順調な稼働を考慮しても、大幅な能率の上昇は人員不足を示しており、当期だけしか明らかにしない「先行き不透明」さとともに深刻な事態になっています。

（生産・人員計画、部内推移をはじめ財務対策、社宅・社有地計画、保安確保の具体策、経営多角化・新分野開拓の具体策など質問事項に対する回答については省略

質疑応答の要旨

○「当面、現行維持」としているが、「当面」とはいつまでか。

△「構造調整に対する考え方」を基本に可能なかぎり二百三十五万トン体制を維持したい。指摘された人員問題は、効率的・有効な人員配置で対応し、保安上の問題を発生させないことを前提に、必要に応じて職種区分の垣根をはずす努力もしていく。

○下期マイナス分の上乗せ計画は無理な作業を強いないか。

△自然条件の好転、MHPの能力などからクリア出来ると判断している。日曜出炭などを考えず百四十三日の操業日で計画した。出勤低下がないよう努力する。

○全国比でみて負傷の実績が悪いが、保安状況をどう考えるか。

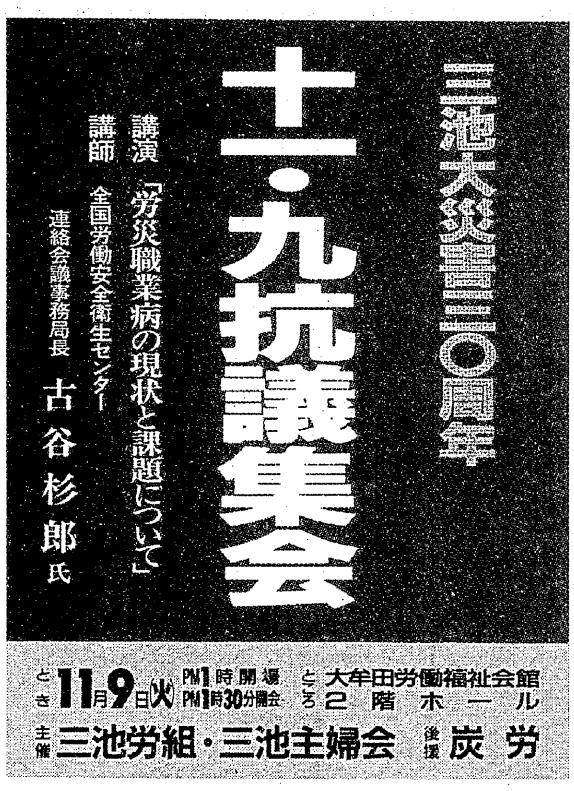
△統計上確かに悪いが、昨年と比較すれば着実に良くなっている。

○社宅問題での課題が多い。社有地を含めて前向きに対応を。

△社宅は必要戸数を維持し、他は合理化して財務対策に当てる。社宅の集約新設は困難であり、社有地問題も対応できない。

定期総会日程

11月5日	14回委員会（行動方針案、予・決算案提起）
11月22日	15回委員会（行動方針案、予・決算案集約）
11月28日	定期総会



三池大災害30周年 11・9抗議集会

とき 十一月九日（火） 午後一時開場 一時三十分開会

※ 当日は二十四時間ストライキ（港務所は時限スト）に突入します。

ところ 大牟田労働福祉会館三階ホール

講演 「労災職業病の現状と課題」

講師 全国労働安全衛生センター連絡会議事務局長 古谷杉郎氏

※ 全国労働安全衛生センターは、各地の地域安全（労災職業病）センターを母体とした働く者のネットワークで、情報誌の発行、労働安全衛生学校の開催、調査・研究・政策提言、書籍の発行、国際交流などを行っています。

労働歳時記

鷲尾新事務局長 〝過激派宣言〟

○…「この四年間、団結を大事にしてじっとガマンしてきた。もう本音で話し合う運動を」と訴える代議員の意見に、会場から拍手がわき、「そうだ」と声がかかった。結成当初、運動路線の異なる旧ムラ合体の寄木細工といわれた連合。四年目の大会で初めて本音の声が聞かれ始めた。

○…今年の連合大会の特徴は四つある。内容は、①連合運動と組織運営への厳しい注文、②非自民連立政権から首相が初の来賓参加、③結成四年目で初めての難航人事による新体制――雇用闘争の弱さ、運動のない政策闘争、憲法への揺らぎなどが目立ち、総じてたたかいの弱さが指摘されている。

○…折りしも日経連は、不況下で「雇用か賃下げか」を迫っている。山岸会長は「労働者魂、労働組合魂の発揮」を強調。新任の芦田会長代行も「労働組合の論理を前面に、組合の存在意義を」と決意を語る。

○…鷲尾新事務局長は、「激しい対立が従来以上に起きる。私は企業別組合の申し子。労使協調にしても過激になったと言われるかもしれない」と連合運動への〝過激派宣言〟。個性派の山・芦・鷲トロイカ体制の「労働者魂」と「過激派宣言」の洗礼は、組合与党時代の年金と減税財源、そして野党側にまわった日経連との荒波高い九四春闘で真価が問われよう。

○…「この四年間、団結を大事にしてじっとガマンしてきた。もう本音で話し合う運動を」と訴える代議員の意見に、会場から拍手がわき、「そうだ」と声がかかった。結成当初、運動路線の異なる旧ムラ合体の寄木細工といわれた連合。四年目の大会で初めて本音の声が聞かれ始めた。

○…今年の連合大会の特徴は四つある。内容は、①連合運動と組織運営への厳しい注文、②非自民連立政権から首相が初の来賓参加、③結成四年目で初めての難航人事による新体制――雇用闘争の弱さ、運動のない政策闘争、憲法への揺らぎなどが目立ち、総じてたたかいの弱さが指摘されている。

○…折りしも日経連は、不況下で「雇用か賃下げか」を迫っている。山岸会長は「労働者魂、労働組合魂の発揮」を強調。新任の芦田会長代行も「労働組合の論理を前面に、組合の存在意義を」と決意を語る。

○…鷲尾新事務局長は、「激しい対立が従来以上に起きる。私は企業別組合の申し子。労使協調にしても過激になったと言われるかもしれない」と連合運動への〝過激派宣言〟。個性派の山・芦・鷲トロイカ体制の「労働者魂」と「過激派宣言」の洗礼は、組合与党時代の年金と減税財源、そして野党側にまわった日経連との荒波高い九四春闘で真価が問われよう。

秋闘、一律加給金で決着

退職手当、基礎賃金の底上げならず

退職手当、じん肺・せき損、職業病補償をめぐる秋季闘争は十月十四日に要求書を提出、事務折衝を経て十八日から本格交渉に入り、二十一日の第四回交渉で最終的な詰めを行った結果、午後三時三十分妥結しました。

退職手当では切実な要求である基礎賃金の額上げについては、会社側が当初から「組合側の要求も理解できる」としながらも前向きの回答を示さず、本年度も実現しませんでした。妥結内容は定年一律加給金が実勤務三十五年以上の者で百八十七万円（引き上げ額十五万円、以下五年きざみで格差）となっています。

じん肺・せき損については、入院準備金を二千円引き上げ四万三千円とし、栄養補給金を各ランクとも二百円引き上げとなりました。

職業病補償については現行協定通りです。

下期期末手当要求へ

炭労の下期期末手当について十月十九日、中央執行委員会で上期の妥結状況を踏まえて前期同様五十五万円を要求してたたかうことになりました。前期妥結額は最高額社（太平洋）が四六九、五〇〇円で要求額との格差が八〇、五〇〇円。三井の場合の格差は九二、〇〇〇円。要求書提出を経て十一月中旬から交渉に入ります。なお、鉱山、病院なども並行して別途要求、交渉に入ります。

生産会議資料

三池鉱1993年上期出炭実績

（1993.4～1993.9）

計画(トン)	実績(トン)	能率(人／トン)	遂行率(%)	日産(トン)
1,175,000	1,041,201	148.5	88.6	7,231

三池鉱1993年下期出炭計画

（1993.10～1994.3）

計画（トン）	能率(人／トン)	掘進先数	日産（トン）
1,308,799	190.0	直轄5.8 請負2.8	9,152

三池炭需給実績・計画

（トン）

	1993年上期計画	実績	増減	1993年下期計画
出炭	1,175,000	1,041,201	−133,799	1,304,000
送炭	1,041,000	1,031,619	− 9,381	1,304,000
期末貯炭	1,460,800	1,400,279		1,362,779

人員計画

（一般職・人）

	1993年9月末	増減	3月・期末
採炭	77	− 7	70
掘進	185	− 3	182
仕繰	278	−20	258
(直接計)	540	−30	510
運搬	144	− 4	140
機械	235	−14	221
電気	93	− 2	91
内特	36	− 3	33
(間接計)	508	−23	485
坑内	104	− 9	95
坑外	55	− 2	53
計	1,207	−64	1,143

大衆討議を積極的に

十一月五日の第十四回委員会以降、定期総会に向けて行動方針案と予算・決算の大衆討議に入ります。きびしい石炭情勢のもとですが、職場からの積極的な提言と意見を待っています。